

## 長野大学教育改革シンポジウム開催

小林淳一（11組）

私が所属している長野大学で、「長野大学教育改革シンポジウム」を11月26日（日）に開催しましたので、その報告をします。

当日は、同期で同級の高津（志摩）律子さん（11組）が参加してくれました。

長野大学は新しい時代のニーズに対応するため、情報系学部の設置、既存学部学科の再編を構想しています。この取り組みは、本学の更なる進化と地域とともに成長を目指す人材の育成に寄与するものです。

ご存じかも知れませんが、長野大学は、平成29年（2017年）に私立大学から公立大学に生まれ変わりました。公立大学には設置者がおり、長野大学の場合は上田市になります。また、公立化後は、大学は設置者との間で中期計画（6年間）を取り交わし大学マネジメントを進めていく仕掛けになっています。その中に新たな理工系学部（情報系）の設置が計画されています。大学としては、すでに3年ほど前から設置に向け準備を進めています。今年に入り新棟を建設するための文部科学省関連の競争的資金に応募し採択されました。先日設計施工業者の選定が終わり、本格的に建設がスタートしました。それと並行し、新しい学部の構想、教育カリキュラムの選定も進められ、骨格がはっきりしてきたので、地域の人たちや産業界に向けて進捗状況を報告するために「長野大学教育改革シンポジウム」を開催しました。

上田市長はじめ約130名の参加がありました。地域住民の方、地域産業を支える企業幹部の方、さらには高校生等の参加もあり、大学のイベントホールはほぼ満員に近い状態となりました。私は学長として、新学部設置の背景とどんな学部を作るのか、概略を説明しました。また基調講演は、「産業界からの大学教育への要望と期待」と題して、オルガン針（株）代表取締役社長の増島良介氏（上田高校75期）にいただきました。

その後のパネルディスカッションでは、「ChatGPTで働き方・教育がどう変わるか？」をテーマに、4人のパネラーにお話しいただきました。なかなか難しいテーマですが、パネラーの皆さんが分かり易くご自分の意見を述べられたので、会場からは拍手や笑いがありとても盛況でした。約3時間と長丁場のシンポジウムでしたが、参



加された皆さんは最後まで熱心に耳を傾けていました。11月28日の信濃毎日新聞に開催記事が載りました。

教職員の皆さんの積極的な会場運営により、予定通りシンポジウムを開催し無事終了することができました。



シンポジウム会場の様子

(2023年12月1日記)

以上